

# 第1章

## 水道ビジョン策定にあたって



名張市の花 ききょう

# 第1章 水道ビジョン策定にあたって

## 1. 第2次名張市水道ビジョンの改定にあたって

本市水道事業は、2011（平成23）年度から2020（令和2）年度までを計画期間とする名張市水道ビジョン（以降第1次名張市水道ビジョンとする）を策定し、老朽化した施設や設備、管路の更新、非常時対策として耐震化や緊急時貯留の確保、応急体制の充実、経営の安定化や効率化などに取り組んできました。

しかし、人口減少と節水機器の普及などによる給水量の減少傾向は継続しており、それに伴う給水収益の減少が事業経営に及ぼす影響も大きくなっています。また、南海トラフ巨大地震の発生確率の高まり、異常気象の発生頻度増加による風水害などのこれまで想定されていなかったリスクへの対応の必要性も高まっています。さらに、1970年代（昭和40年代後半）以降の大規模住宅地開発により人口が急増し、それに伴う水需要の増加に対応するために整備された水道施設が、近い将来、経年化等による更新対象となり、その莫大な更新費用により事業経営を圧迫することが懸念されるなど、高度化、多様化する新たな課題への取組が求められています。

このような状況の中、本市水道事業が将来にわたって良質な水道サービスの提供を続けていくために、第1次名張市水道ビジョンの考え方を踏襲して、第2次名張市水道ビジョンを策定します。

第2次名張市水道ビジョンは、本市水道事業の現状と将来見通しを分析するとともに、本市が目指す未来の水道事業を定め、その実現のための方向性や実現方策を示すものです。



なばりのナッキー

## 2. 計画の位置づけ

第2次名張市水道ビジョンは、第1次名張市水道ビジョンの計画期間における取組や名張市の総合計画である「新・理想郷プラン」との整合性を図るとともに、2013（平成25）年度に厚生労働省が策定した「新水道ビジョン」の内容も踏まえ、本市水道事業の50年後100年後を見据えた基本理念や理想、基本方針を示すとともに、それらを実現するために当面実施しなければならない事業を示したものです。

第2次名張市水道ビジョンの事業計画期間は、2021（令和3）年度から2030（令和12）年度とします。

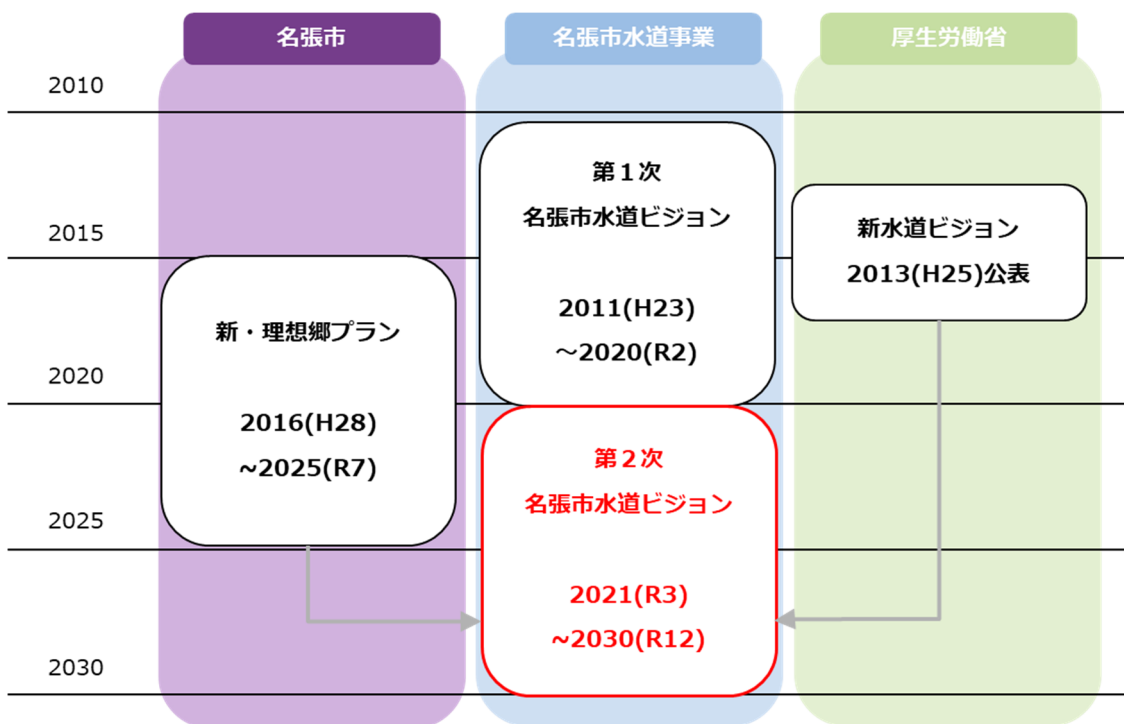


図 1-1 第2次名張市水道ビジョンの位置づけ

## コラム

### タオル配って水道のPR

かつて水道のないころ、名張市は“冬期渇水”がよく問題となった。桔梗が丘に団地ができるということで水道ができた。水道ができる前の昭和37年ごろ、近鉄が一足先にLPガスの供給を開始したが、そのときのアンケートでは「ガスよりも水道施設を」と水道優先を望む声もあり、40年の給水開始は待望の通水であった。

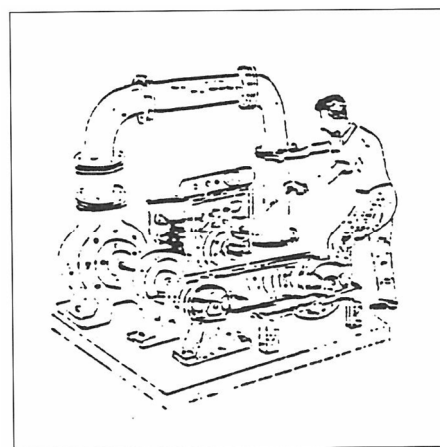
しかし、いざ通水の段になると、渇水地の人しか加入してくれず、普及率はさっぱり。職員がタオルを持って勧誘に歩いたこともあった。

### 停電時に中古エンジン活躍

水源地にとって一番の難敵は停電。まだ給水人口が少ないころ、工事費を少しでも軽減しようと、ピンチヒッターに登場させたのがこのトラックエンジン。タイヤを回す機械で停電時に送水ポンプを回そうという発想だ。16万円でポンプ室にすえ付けた。

操作は運転と同じ。キーを差し込んで始動するとブルン、ブルン。アクセルをふかしながらロー、セカンド、トップと、ギアを入れ替える。スピードメーターが時速50km近くまで上がると遠心クラッチが働いて、送水ポンプが快調に回転し始める。

停電のたびに活躍、給水を開始したころから約2年半にわたり実働510kmの“走行”を記録した。揚水量に換算して1,279立方メートルにのぼる。厳しい時代の水道会計の一端を支えた。廃品利用のお手本的存在だった。



断水から救った自動車エンジン

『名張市水道事業25年のあゆみ』より